

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)学習習慣と学習方法を身につけ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。 (2)定着した知識・技能を、「なぜ」「どうして」と考え、説明・応用できる深い理解へとつなげる。
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)①川通チャレンジカップ(KcC)を5教科で実施する。【每学期1回以上実施】 ②学習状況や振り返りのデータを可視化・分析し、授業改善と個に応じた指導の充実を図る。【通年】 ③学習アプリ等を活用し、理解度や進度に応じた個別最適な学習を推進する。【通年】 (2)①対話の進め方や振り返りを工夫し、自分の考えを深めながら他者と学び合う活動を充実させる。【通年】 ②ICT機器の活用や学習形態の工夫等により、協働的に学ぶ時間を意図的に設定する。【通年】 ③チームティーチング(TT)の授業で、思考を深める発問や支援を行い、対話を通した学びの質を高める。【通年】

⑤	年度末評価	
	評価(※)	調査結果分析(2月) ①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 年度末評価に向けて ↓ ①目標の達成状況 ②学力向上策の妥当性 結果提供(2月) 学力向上策の実施状況調査(学力)
学力向上策の実施状況		
今年度の成果と次年度の課題		

一步) 中 $3 > (1月)$

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓ 学力向上策の充実 ①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用	
結果から考えられる児童生徒の実態	

- ①学校全体での取組
- ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用
- ③中間評価を経ての取組
- ④調査結果を活用した授業

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語と数学ともに埼玉県平均以上ではあるものの、国語では「文章全体を三つに分けて整理したものとして適切なものを選択する」問題に、数学では「反比例の表において、xの値が-3のときのyの値を求める」関数に関する問題に課題があった。 ・深い学びへの理解につながる生徒質問「学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」について、肯定的な回答が100%であった。
結果から考えられる児童生徒の実態	・基礎的・基本的な知識・技能の定着に引き続き課題が見られる。 ・学級内で自分の考えを伝えたり、話し合ったりする、グループワークを通じて自らの学びを深めることができている。

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策(1)・(2)ともに実施できている。(1)①川通チャレンジカップは5教科で実施した。2学期以降も継続して取り組んでいく。また、②、③についても継続して行い、生徒一人ひとりの学習状況を適切に把握し、指導していく。(2)については、教科によってグループワークを通して、自分の考えを深め、他者と比べ合う姿が見られた。2学期以降も、定着した知識・技能を、「なぜ」「どうして」と考え、説明・応用できる理解へとつなげるために指導していく。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

教育研究所